課題整理総括表

利用者名　A　様　　作成日　令和6/2/15

自立した日常生活の阻害要因（心身の状態、環境等）			
	①右股関節の痛み	②長女はフルタイム勤務	③抑うつ傾向
	④転倒への不安がある	⑤心不全への病識が薄い	⑥段差がある

利用者及び家族の生活に対する意向	
	本人：家で娘と二人で今までのように暮らしたい。 長女：退院後は、家事と仕事が両立できるか不安はある。

状況の事実 ※1		現在 ※2	要因※3	改善/維持の可能性※4	備考（状況・支援内容等）
移動	室内移動	(自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	室内短距離は独歩、屋外歩行は痛み不安が強くあまり実施できない。
	屋外移動	自立 (見守り) 一部介助 全介助	①③④	(改善) 維持 悪化	医師：継続的なリハビリでADLは改善する。
食事	食事内容	支障なし (支障あり)	②⑤	改善 維持 悪化	間食が多い。 医師：塩分、水分、血圧に気をつけることで心不全の悪化予防が期待できる。
	食事摂取	(自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
	調理	自立 見守り 一部介助 (全介助)	①④	(改善) 維持 悪化	
排泄	排尿・排便	(支障なし) 支障あり		改善 維持 悪化	しゃがみ動作に右股関節の痛みあり動作に時間がかかる。
	排泄動作	(自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
口腔	口腔衛生	(支障なし) 支障あり		改善 維持 悪化	総義歯
	口腔ケア	(自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
服薬		自立 見守り (一部介助) 全介助	⑤③	(改善) 維持 悪化	入院中は看護師。自宅ではお薬カレンダー利用も飲み忘れあり。
入浴		自立 見守り (一部介助) 全介助	①③④	(改善) 維持 悪化	入浴や洗身に見守り、介助されている。
更衣		自立 見守り (一部介助) 全介助	①③④	(改善) 維持 悪化	
掃除		自立 見守り 一部介助 (全介助)	①③④	(改善) 維持 悪化	自宅では、掃除・洗濯は長女と一緒に行っていた。
洗濯		自立 見守り 一部介助 (全介助)	①③④	(改善) 維持 悪化	
整理・物品の管理		(自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
金銭管理		自立 見守り (一部介助) 全介助	③	改善 (維持) 悪化	通帳管理は長女、少額は本人管理。
買物		自立 見守り (一部介助) 全介助	①③④	改善 (維持) 悪化	院内の売店にお菓子など買いに行く。
コミュニケーション能力		(支障なし) 支障あり		改善 維持 悪化	聴力低下あり、大きな声で話す必要あり。
認知		(支障なし) 支障あり		改善 維持 悪化	やや抑うつ傾向
社会との関わり		支障なし (支障あり)	①③④	(改善) 維持 悪化	入院前、老人会のカラオケ会には参加していた。
褥瘡・皮膚の問題		(支障なし) 支障あり		改善 維持 悪化	
行動・心理症状(BPSD)		(支障なし) 支障あり		改善 維持 悪化	
介護力（家族関係含む）		支障なし (支障あり)	②	(改善) 維持 悪化	介護者は長女のみ、フルタイム勤務。
居住環境		支障なし (支障あり)	⑥	(改善) 維持 悪化	室内に段差あり。トイレ、浴室に手すりはない。コタツの生活。
				改善 維持 悪化	年金11万/月、持ち家

見 通 し ※5	生活全般の解決すべき課題（ニーズ）【案】	※6
①③④⑥ 右大腿骨頸部骨折術後、右股関節の痛みや転倒への不安のためリハビリに積極的になれず、独歩可能だが短距離にとどまっている。同時に認知機能の低下も見られる。 鎮痛剤を適切に利用しながらリハビリを継続することで、筋力の向上、歩行状態の改善が期待できる。また、転倒防止のための自宅内の環境整備も必要。 痛みが軽減し安定した歩行ができることにより活動性が向上し、意欲も出てくると考える。 慢性心不全により生活不活発となっていたことが、今回の転倒の原因の一つとして考えらるため、慢性心不全の悪化予防についても考える必要あり。 ②③⑤ 塩分の多い食事や内服忘れ、昼食を菓子パンやお菓子で済ますなど十分な栄養が取れないことで、慢性心不全の急性憎悪を何度か繰り返し、意欲や活動性の低下を招き、今回の転倒の一因となったと考えられる。入院中は心不全症状は安定しているが、退院後に悪化する可能性あり。 塩分、水分に注意し、3度の食事をきちんと食べ、処方通りに服薬することで骨粗しょう症、慢性心不全の悪化を予防できると考える。また、適度な運動もADLの改善、心機能の維持・向上には必要になる。 疾患に対する理解と、日常生活の見直しへの働きかけを行い、セルフケア能力を高める必要あり。 安定した体調で過ごせることにより、老人会に参加するなど、楽しみのある生活ができる。楽しみのある生活は、意欲の向上、自信の回復、認知機能改善につながり、長女の不安や負担も軽減し、長女と二人穏やかな生活ができる。	転ばないようにしたい	1
	老人会のカラオケ会に参加したい	2

※1　本書式は総括表でありアセスメントツールではないため、必ず別に詳細な情報収集・分析を行うこと。なお「状況の事実」の各項目は課題分析標準項目に準拠しているが、必要に応じて追加して差し支えない。
※2　介護支援専門員が収集したた客観的事実を記載する。選択肢に○印を記入。
※3　現在の状況が「自立」あるいは「支障なし」以外である場合に、そのような状況をもたらしている要因を、様式上部の「要因」欄から選択し、該当する番号（丸数字）を記入する（複数の番号を記入可）。
※4　今回の認定有効期間における状況の改善/維持/悪化の可能性について、介護支援専門員の判断として選択肢に○印を記入する。
※5　「要因」および「改善/維持の可能性」を踏まえ、要因を解決するための援助内容と、それが提供されることによって見込まれる事後の状況（目標）を記載する。
※6　本計画期間における優先順位を数字で記入。ただし、解決が必要だが本計画期間に取り上げることが困難な課題には「－」印を記入。